

7 支援金の効果的な活用により継続的に事業展開している事例の紹介

フォローアップ調査の対象団体を中心に、過去に「地域発 元気づくり支援金」を活用し、その後も発展的に事業を継続されている団体の皆様から、最近の活動内容や今後の事業展望等についてお伺いしました。地域づくり活動の参考となるような取組を、各地域からご報告いただいています。

地域 振興局	タイトル	団体名	掲載 ページ
佐久	常和を元気にする復興まちづくり	常和復興まちづくり協議会 (佐久市)	113
上田	湯の丸高原におけるスポーツを通じた健康増進事業	東御市陸上競技協会 (東御市)	114
諏訪	諏訪地域日本遺産活用促進ウォーキングガイド作成事業	一般社団法人大昔調査会 (諏訪市)	115
上伊那	「伊那市中学生キャリアフェス」の開催	伊那市中学生キャリアフェス実行委員会 (伊那市)	116
南信州	高齢や障害(個人的な生きづらさ)を持っている方々の外出のためのインフォーマルサービス創出事業	南信州おでかけチーム“ウィズ” (飯田市)	117
木曽	安全安心アクティビティフィールド構築事業	一般社団法人 木祖村観光協会 (木祖村)	118
松本	地域を主体的に学び、ともども地域の文化づくりを推進する事業	七日市場の歴史を学ぶ会 (安曇野市)	120
北アルプス	鹿島川左岸堤防遊歩道整備事業	はなみフラワーズ (大町市)	121
長野	ながの地域まるごとキャンパス事業	ながの若者スクエア「ふらっと b」運営事務局 (長野市)	122
北信	若者と協働してつくる安全安心な超特別栽培米プロジェクト	青倉受託作業班 (栄村)	123

常和を元気にする復興まちづくり (常和復興まちづくり協議会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

2019年の台風19号により住宅の損壊、浸水、農地山林の崩壊など過去に例のない大きな被害を受けた。安全・安心に暮らし続けることができる地域をつくるため、住民が主体となって地域防災力の向上やコミュニティーの再生に取り組んでいます。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R2	○災害復旧工事の推進 ○広報・災害伝承活動 ○地域防災活動	690千円
R3	自主防災組織の強化、避難体制の整備など地域の防災力を高める取組みを進めた。	433千円
R4	○復興拠点の整備 ツツジ園の整備、耕作放棄地のお花畑化プロジェクト	715千円

最近の活動内容と今後の事業展開

災害復旧工事の概成に伴い、まちづくり活動の方向性や内容を振り返り、地域防災活動やお花畑化プロジェクトなどについては地域を支える重要な活動として継続しています。令和5年度にはこれまでの活動の延長線上で、身近な里山の維持・保全・活用などにも取り組んでいます。より多くの住民に活動に参加してもらえるような工夫を凝らすと共に、地域外の人たちとの交流についてもさらに広げていくような活動を目指していきたい。



【耕作放棄地のお花畑化プロジェクト】

取組の効果

- ・地域防災活動については、防災リーダーを中心として自主防災活動を展開しており、防災マップ、防災マニュアル、助け合いマップ、自主避難ルールの作成、また近隣企業との一時避難所協定の締結など多くの成果につなげています。
- ・復興拠点のシンボルとしてツツジ園の拡張整備などに取り組んだ結果、耕作放棄地のお花畑化プロジェクトなど新たな事業展開につなげることができました。また、これらの活動を通じて地域内外の交流拡大にもつながっています。

ポイント

- ・災害を契機に発足した任意団体ですが、自治会組織に位置付け（期間限定）することにより継続的な活動につなげることができました。また、資金的にも行政からの支援だけでなく自治会からの支援も受けて活動を展開することができました。
- ・自治会の義務的活動でなく、楽しみながら自主的に活動に参加できるような形式としています。このため、各自の主體的な意思に基づいて活動を継続展開することができています。

団体名 常和復興まちづくり協議会（佐久市）
連絡先 事務局 水間武樹
Facebook 常和のまちづくり

湯の丸高原におけるスポーツを通じた健康増進事業 (東御市陸上競技協会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

陸上競技の普及及び振興をはかり、市民の心身の健全な発達と明るく豊かな生活の促進に寄与することを目的としている。主な事業として、陸上競技に関する事業やその技術指導、各種陸上競技大会の開催等を実施している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R2	子ども見守り隊養成講座	611千円
R3	湯の丸高原におけるスポーツを通じた健康増進事業	0千円
R4	湯の丸高原におけるスポーツを通じた健康増進事業	871千円

※R2は東御市総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会として実施

最近の活動内容と今後の事業展開

小学校3年生から6年生までを対象とした、陸上教室を毎週水曜日（月・土曜日）に東御中央グラウンド等で実施している。また、秋季にはGMOアスリートパーク湯の丸高原にてランニングカーニバルを実施している。

ランニングカーニバルについては、毎年内容をブラッシュアップするとともに、近隣市町村や首都圏等からの参加者が増えていることから、“ランニング”だけにとどまらず、農畜産物など東御市の魅力を発信する場につなげたい。



【小学生駅伝大会の様子】

取組の効果

活動には、小学生から一般市民の大人まで幅広い参加があり、また近隣市町村からの参加が促されることで、世代間・地域間交流が促進される。

更に、招待選手が首都圏等に居住していること、トレランEKIDENには、首都圏等からの参加者が増えてきていることから、都市と地方の交流も促進され、地域コミュニティの活性化につながっていると考えられる。

ポイント

R4に支援金の活用を終えたが、地元企業がスポンサーとなったこともあり、継続的に事業を実施することが可能となった。

また、近隣の市町村にとどまらず首都圏等からの参加者も増えつつある。トップアスリートを招致して1000m記録会や交流会等のイベントを開催する“ランニングカーニバル”に、今年度よりマラソン大会も開催することとなり、新たな活動の取り組みから活動の幅が広がった。陸上競技大会とは異なり、イベントを通じて、走る楽しさや健康増進につながるきっかけ作りを創出している。

団体名 東御市陸上競技協会（東御市）
連絡先 関（0268-64-5895）

諏訪地域日本遺産活用促進ウォーキングガイド作成事業 (一般社団法人大昔調査会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

考古学や歴史学等に根ざして、地域の「大昔」（原始・古代）や「昔」（中近世・近現代）に関わる歴史的文化遺産の保護・活用に資する活動を行う団体です。

大昔や昔における人間活動を考察するため、考古資料・歴史資料等に関する調査研究を行い、その成果を分かりやすい方法で公開することにより、国民共有の財産である歴史的文化遺産の社会的な保護及び活用に貢献することを目的としています。（構成員：約 60 名）

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R2	諏訪地域日本遺産活用促進ウォーキングガイド作成事業	601 千円
R3	諏訪地域日本遺産活用促進ウォーキングガイド作成事業（第二年次）	637 千円
R4	諏訪地域日本遺産活用促進ウォーキングガイド作成事業（第三年次）	668 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ・3年間の事業で作成した「ウォーキングガイド」(01～03号)は観光客や地域住民その他縄文愛好者等に好評で、博物館や観光施設等に配置した無料配付分はほぼ在庫なしとなった。
- ・そこで3年分を合冊し当初はQR読み込みとした詳細情報も加えた「最高合体（もっと詳しい解説付き完全版）」を制作しR7年度から有料頒布(税込み800円)を開始し好評である。
- ・様々な縄文ウォーク等に活用されており、一層の利用促進を図り「歴史と共にある地域づくり」の実現に貢献したい。



【ココですガイド最高合体〈完全版〉】

取組の効果

- ・「ウォーキングガイド」(01～03号)は当初から好評で在庫切れも早かったが、今回の合冊版（通称「ココですガイド最高合体〈完全版〉」も売行きが好調で、地域住民や観光客にも喜ばれており、「歴史と共にある地域づくり」に一定の貢献ができていると考えられる。また日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の定着や活用のためにも有用なツールとなっている。
- ・個人やグループによる「縄文遺跡めぐり」や「諏訪地域ウォーキング」に利用されている。

ポイント

- ・縄文遺跡や遺物を身近に感じ深く学ぶ場所としては史跡公園や博物館等が一般的ですが、本誌では紹介する出土品（土器や土偶）を敢えて数点に絞り込み、その特徴や出土箇所をピンポイントで明示し、現地を訪ねてみることに、その周辺の遺跡や史跡を巡り肌感覚で“縄文”を楽しむことを提案してみました。こうした新しい視点が縄文ファンや観光客に支持されているのかもしれませんが。
- ・持ち歩きに便利なA5サイズのフルカラー版とし、市町村ごとに手書きイラストマップや1点の土器や土偶の見どころ解説を加え、具体的な全18コースのウォーキングガイドを提示しました。
- ・ガイドブックが話題になることで当会の知名度も上がり、当会の活動目標「自腹を切って地域の歴史的文化財保護に資する活動に参加する」に趣旨賛同され入会される方も徐々に増えています。
- ・本事業に続き、「八ヶ岳～諏訪湖：知られざる大遺跡紹介シリーズ（元気づくり支援金活用）」にも継続的に取り組んでおり、相乗効果も上がっているものと思われます。
- ・民間の協力団体（スワニミズム、おかやるく、諏訪考古学研究会、諏訪塾、狼煙文化調査会など）とのコラボ展開にも努めており、それがお互いの事業活性化に役立っています。

団体名 一般社団法人大昔調査会
 連絡先（高見俊樹 090-8328-2544）
 ホームページ：
<https://www.big-advance.site/c/129/1672>
 メールアドレス：ttakami3@gmail.com

「伊那市中学生キャリアフェス」の開催 (伊那市中学生キャリアフェス実行委員会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

キャリア教育の推進のため、「地域を知り」、「地域の人とふれあい」、「地域の未来を考える」機会として、平成30年度から地域発元気づくり支援金の交付を受け、市内全中学2年生を対象に「伊那市中学生キャリアフェス」を開催しています。実施に当たっては、伊那市中学生キャリアフェス実行委員会を組織し、企画・運営を行っています。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
H30	伊那市中学生キャリアフェスの開催	670 千円
R 元	伊那市中学生キャリアフェスの開催	990 千円
R 4	伊那市中学生キャリアフェスの開催	1,025 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ・設立以降、市内の中学2年生を対象とした「伊那市中学生キャリアフェス」を開催しています。
- ・本取組みは今年で10年目を迎え、出展者や中学生に定着してきました。地域で育つ子どもたちが、多くの大人と出会い、生き方や考え方を知ることによって、自分の将来を考える機会となるよう、今後も取組みを継続していきます。



【当日の集合写真】

取組の効果

地域で働く大人にとって、実行委員や出展者として、地域の子どもの地域で育てることに関わる機会となっています。また、参加する中学2年生にとっては、地域で働く大人との関わりから、自分が生まれ育った地域の魅力を知る場となり、中学生という早い段階で知ってもらう体験が、自分のキャリアを考えるきっかけになり、また、将来伊那市で働くことを選択するきっかけになると考えています。

毎年、イベント前に各学校で事前学習を実施するなど、参加する生徒にとって最大限の効果が得られるよう取り組んでいます。また、別途実施している中学生の職場体験などを通じてキャリアフェスの出展者を募集するなど、出展者数の確保に努めています。

ポイント

- ・出展者への説明会では、イベント開催の趣旨を伝える中で、企業の紹介で終わらないようお願いしています。
- ・各中学校から選出された生徒たちが、イベントの企画や事前学習に関わることにより、他の参加生徒たちも主体的に参加できるように取り組んでいます。
- ・出展者から協賛金をいただき、事業費の一部としています。

団体名	伊那市中学生キャリアフェス
連絡先	伊那市教育委員会事務局 学校教育課 学務係
	電話 0265-78-4111 内線 2734
メール	gak@inacity.jp

高齢や障害(個人的な生きづらさ)を持っている方々の外出のための インフォーマルサービス創出事業 (南信州おでかけチーム“ウィズ”)

団体紹介 (私たちが目指しているもの)

当チームの知名度の向上はもちろん、ユニバーサルツーリズムや新しい外出支援そのものを世の中に知っていただく必要があると考え、長野県観光スポーツ部や健康福祉部、南信州地域振興局商工観光課などとも情報共有をしているが、その関係性をもっと密なるものとするのと同時に、県内で事業推進する団体や個人とのネットワークや情報共有、情報発信を強化していく。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R3	高齢者や障害者等の外出支援サービスを南信州地域に広めるために研修会やHPの開設、モニターツアーなどを行った。	875千円
R4	高齢や障害を持っている人が積極的に外出できる地域を作るとともに新たな市場創出による観光産業の活性化のため本活動の紹介動画をSNSやHPに投稿し、広報誌を作成し関係施設に配布した	783千円
R5	南信州地域で、高齢や障害(個人的な生きづらさ)を持っている人も、持っていない人も一緒に「住み慣れた地域・場所で、安心して出かけたり楽しんだりできる地域」を目指し、南信州らしい「新たな外出支援(おでかけサポート)」について取組を進めた。	1,068千円

最近の活動内容と今後の事業展開

活動資金と併せて、サービス利用者の負担軽減という面で、今後の資金調達が課題となっている。まずは第一に情報発信や仲間を増やすことによるサービス利用者やチームへの理解者支援者の拡大に努めて行きます。同時に、行政や関連機関への働きかけを継続し、利用者(障害当事者、高齢者)への支援の仕組みづくりを行っていく。



【プロモーション用動画制作】

車いす YouTuber とコラボレーション

取組の効果

当地域においてこれまでほとんど活動が見られなかったユニバーサルツーリズムにおいて、南信州シンポジウムの開催できたことにより、地域への普及が図れた。

本事業の活用により多様な情報発信が可能となり、動画制作・配信においては車いす YouTuber とのタイアップが叶い、また全国で総合福祉サービスを手掛ける企業のセミナーや兵庫県のユニバーサルツーリズム人材育成プロジェクトでの事例発表、更に複数の大学の講義で活動を紹介いただくなど、認知度向上の機会が格段に増えた。

入浴サポート用テキスト作成とバスリフトの使用が可能となったことにより、最も負担がかかるリスクが生じる「入浴サポート」のケアができ、チーム以外にサポーターや仲間を作り、新たな事業展開を行うことの可能性が広がった。

ポイント

本事業を活用して作成したパンフレットや動画などを通して、また活動を地元新聞や地元放送局に取り上げられることにより、これまで障害や高齢を理由に出かけたくても出かけられなかった域内の当事者や家族、関係者に情報が届くようになり、新たなマーケットを創出できた。

また10月10日には長野県企画振興部市町村課より阿智村へ依頼があり、県の市町村等交流職員を対象とした自治ゼミナールにてユニバーサルツーリズム研修を実施するなど、各方面への活動や情報の普及を実感している。

団体名 南信州おでかけチーム“ウィズ”
連絡先 0265-43-3001
HP : <https://odekaketeam-with.net/>

安全安心アクティビティフィールド構築事業 一般社団法人 木祖村観光協会

団体紹介（私たちが目指しているもの）

木曾谷、そして私共の地域である木祖村は澄んだ空、山、川、水、田畑があり過疎化が進む中山間地そのものです。しかしながら、日本のど真ん中に位置し、太平洋と日本海にそそがれる大河の分水嶺に位置しております。日本のそして世界の都市部には無い素材が溢れています。こうした素材を活かし、その地域の魅力（歴史文化含む）を発信できる人材を育成することで、この地域を訪れる関係（交流・観光）人口を増やしていくことを目指します。夏は歴史の道である中山道（藪原宿～鳥居峠～奈良井宿）や木曾川源流の地を訪れる人への魅力発信、冬は良質な雪質とゲレンデコンディションを売りにしている「やぶはら高原スキー場」への入場者を目指します。このことに加え、観光客の安全対策に力を注ぐ次第です。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R4	<p>事業名：安全安心アクティビティフィールド構築事業</p> <p>◎遊休農地を活用した無農薬・有機型体験農園開設と講習会の実施</p> <p>◎イヤホンガイドを導入し、中山道鳥居峠（藪原宿～鳥居峠～奈良井宿）及び木曾川上下流交流事業でのガイドに活用</p> <p>◎地域に愛される観光地を目指し、『藪原駅』開駅111周年の記念事業を行うことで中山道鳥居峠、藪原宿、藪原駅の重要性について発信した。</p>	1,310千円

最近の活動内容と今後の事業展開

- ◎最近では観光農園に木曾川下流域の名古屋市の団体40名が収穫体験（じゃがいも）に来園し、収穫した野菜を活用した飯盒炊飯に活用するなど多面的に利用されるようになった。他、収穫物は奈良井宿での朝市や木祖村名古屋アンテナショップで主に7月～11月販売されている。
 - ◎イヤホンガイドを活用した事業では、主に日本遺産である中山道鳥居峠、水木沢天然林での案内で活用し、令和6年度では45団体705名のガイドを実施した。令和7年度でもほぼ近い数字となっている。
 - ◎地域との連携取組については、木祖村の藪原地域自治協議会と共同により、この事業がきっかけで毎年『藪原地域発見〇〇事業』と銘打って事業を実施している。令和7年度で4回目の事業を行った。
- 上記について、今後とも継続し、更に地域経済が潤う仕組みを作っていきたい。



【名古屋市市民の収穫体験】

① 地域密着型観光地づくり

遊休農地の有効活用（体験農園）により農山村の景観が復活並びに維持され、人が入ること
で有害鳥獣対策にも大きな効果があった。更に木曾川上下流交流事業では令和7年度より、名
古屋市上下水道局が主催する『サマートリップ』事業では、ここの観光農園を活用した収穫体
験事業を一連の事業メニューに加え、ジャガイモ掘り体験を40名で実施した。そのジャガイ
モは飯盒炊飯のカレー作りに活かされた。令和8年以降の事業にも継続して活用される見込み
である。

② 安全対策

イヤホンガイドの活用により、ガイド中のお客様への安全対策への注意喚起がスムーズに行
えるようになった。

- ・令和5年度 592名を案内
- ・令和6年度 705名を案内
- ・令和7年度 現在進行中

③ コンテンツの磨き上げ

自然が奏でるハーモニー（川のせせらぎ、鳥の声、風の音など）を聴きながらガイドの説明
が受けられる演出効果は大きい。

④ 地域とのつながり

令和4年度で実施した当該事業により、更に地域とのつながりや連携が深くなった。特に菽
原地域自治協議会との『藪原地域発見〇〇事業』では、テーマを変えて毎年実施しており、今
年で4回目の事業を終えた。

地域の魅力再発見や歴史文化の深堀、新たに開店したお店を知る等々、地元に住んでいる方々
が改めて地域を発見し活性化の道を探るといった事業である。

一般社団法人 木祖村観光協会（木祖村）
連絡先（担当：専務理事 圃中登志彦）
電話：0264-36-2543 FAX:0264-36-3340
メール：t.hata@kisokankou.com

地域を主体的に学び、ともども地域の文化づくりを推進する事業 (七日市場の歴史を学ぶ会)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

「七日市場の歴史を学ぶ会」は、約20年間地域の歴史の調査や活動を行い、先人がこの地の自然を生かし築いていた歩みを学んできた。この調査や活動してきたことを地域の皆さんに発表し、一人一人の生涯学習の向上や七日市場地域の文化づくりに資することを目的に活動している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 4	公民館と協働した講座、史跡巡りの実施 『七日市場の歩み』の刊行発表会の講演 地域の風景写真撮影講座 中学生の地域学習（フィールドワーク）	1, 0 4 6 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

令和5年度は、令和4年の写真講座を活かした「七日市場の風景写真展」を実施。史跡巡りも継続して行った。

また、七日市場の歴史や文化、自然を気軽に地域で知れることを目的に「七日市場かるた」の制作を開始。

句をつくるための地域学習勉強会等を行い、地域内から句を募集。小学生から高齢者まで全130句が集まり、同会と公民館の関係者で選定を行い44句のかるたが令和7年8月に完成した。

11月にはかるた大会を予定している。



【 史跡巡り 】

取組の効果

令和4年度の事業では、各種イベントへの若年層の参加を積極的に促したり、新規に移住してきた人たちとコミュニケーションのとれるような工夫を凝らしたことにより、地域コミュニティの一体感を醸成し、新たな地域づくりの一步となった。

その結果、令和5年度以降の「七日市場かるた」作成に始まる新たな地域理解・交流の取組にもつながっていった。

ポイント

- ・会のみではなく、地元区長会や公民館と協働で取り組むことにより、活動の幅を広げつつ、継続的な取組とすることができている。
- ・今後は制作した「七日市場かるた」や刊行した「七日市場の歩み」を通じてコミュニケーション・新規移住者の地域理解の促進につながっていくことが期待される。

七日市場の歴史を学ぶ会（安曇野市）
会長 曾根原 孝和
E-mail : kazusonehara@yahoo.co.jp

鹿島川左岸堤防遊歩道整備事業 (はなみフラワーズ)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

鹿島川左岸堤防は北アルプスの眺めがよく、観光客等が鹿島川の清流と北アルプスの山並みを撮影するために訪れるが、足元の状態が悪く、移動に苦慮する姿が見られる。

鹿島川左岸堤防に遊歩道を整備することで、堤防からの眺めを観光資源として活用し、地域の活性化につなげることを目指す。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R4年度	遊歩道を整備し、テーブル、椅子、花台等を設置した。 地域の方や近隣の小中学生が参加した。 (全体の3分の1の整備を実施)	1,592千円
R5年度	遊歩道を整備し、テーブル、椅子、花台等を設置した。 地域の方や近隣の小中学生が参加した。 (全体の3分の2の整備を実施)	1,592千円
R6年度	遊歩道を整備し、テーブル、椅子、花台等を設置した。 地域の方や近隣の小中学生が参加した。 (全体の3分の3の整備を実施)	1,773千円

最近の活動内容と今後の事業展開

○活動内容

- ・地域住民や小中学生との協働による草刈りや花の植栽
- ・堤防からの景観を活かしたイベントの開催

○今後の事業展開

- ・観光資源としての情報発信
- ・地域住民や周辺宿泊施設との連携による地域活性化の推進



【草刈り】

取組の効果

- ・地域住民の交流が活発になり、地域のつながりが深まった。
- ・遊歩道を整備により、周辺の広場や工場を周回するコースが形成され、宿泊施設の利用者や地域住民による散歩・ランニングが増加した。
- ・地域の活性化に寄与した。

ポイント

- ・地域住民や小中学生との協働作業により、地区を超えた絆が生まれ、環境整備やイベント開催などを継続的に取り組むことができる。
- ・散歩コースとして定着し始めており、観光地としての役割も果たしている。

団体名 はなみフラワーズ（大町市）
連絡先 大町市平 999-1

ながの地域まるごとキャンパス事業 (ながの若者スクエア「ふらっとb」運営事務局)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

ながの若者スクエアふらっとbは、長野市が「ながの若者チャレンジ応援事業」の取組みの一環として、まちづくりに主体的に取り組むことができる拠点の設置と、学生が市民活動団体の提案する地域活動プログラムに参画する本事業を運営しています。特に本事業は、学生が地域課題を体感で学び、地域の人たちと一緒に考え、主体性をもって自ら行動をすることで、「自分も地域の一員だ」という主体性を育み、地域への愛着醸成につながることを目指します。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 4	市民活動団体や企業などが提案する地域活動プログラムに学生が参画する。学生は多数あるプログラムの中から選び、3日以上活動する。これらの活動では、学生の主体性を重んじており、活動を通じて、学生は地域にある人やモノの魅力を再発見し、自分も地域の一員であるという主体性を育むことで、地域への愛着醸成を目指す。	617,000 円

最近の活動内容と今後の事業展開

2025年度は、34のプログラム提案があり、100人を超える高校・大学生が参加しています。参加した学生の約8割は高校生で、多くは夏休みに活動を希望する傾向にありました。探求学習の一環として、地域の課題や自身のテーマを実体験として学びたいといった高校生もいました。

具体的なプログラムとしては、子どもたちとの野外活動や食農体験、お祭りや多文化交流イベントの運営など、多様な分野がありました。



【子育てサロンで読み聞かせ】

取組の効果

活動後のアンケートやヒアリングでは、実際に地域活動を体験することで、実体験として学びを得ることができた、地域の課題を肌で感じることもできたといった声がありました。

また、地域のために取り組む大人と一緒に活動したことで「地域でこういった人がいるんだ」という発見につながったり、自分の住むまちの良さに気づいたり、改めて地域の人や自然の魅力に気づいた学生も多くいます。

地域まるごとキャンパスの活動を経て、別の地域活動への関心をもつ学生もおり、地域活動への参加のきっかけになっていると考えています。そして地域にとっても、学生と協働する際の入り口となっています。

ポイント

元々本事業は、民間団体が立ち上げ運営してきたため、助成金などで資金を工面してきましたが、事業の重要性や及ぼす効果などが、高い評価を得て、「若者チャレンジ応援事業」として市で予算化されることになりました。事業が継続する中で、運営している側や関わる人・団体も変化していきます。事業の趣旨をきちんと共有することが大切だと思います。その中でも本事業は学生との活動なので、「学生目線」を大事に、学生が人足要員にならないよう、この活動が学生にとってどう学びにつながるのかを、プログラムを提供する側と運営側が意識するようにしています。

また、プログラム提案団体同士の横のつながりづくりも意識し、本事業を通じて団体が協働したり、新たな仲間づくりを意識するきっかけになったりと、団体にとってもプラスとなるように意識して事業を進めています。

ながの若者スクエアふらっとb
(運営：NPO法人長野県NPOセンター)
TEL : 026-223-0051
Mail : nagano@wakamonosq.com

若者と協働してつくる安全安心な超特別栽培米プロジェクト (青倉受託作業班)

団体紹介（私たちが目指しているもの）

青倉受託作業班は、中山間地域で高齢化や転出により耕作できない水田を守る担い手として平成 17 年に結成し、共同でお米の生産を行っている。
 これまでは、農地を守ることを主眼に置いていたが、これからは条件不利地域でも収益向上につながるモデルを確立しなければと考え、移住した若者らと協働して、無農薬に近い米づくりと販売方法を研究し、生産物の付加価値を高めて独自販売を行ない、若者が定着できる条件づくりを目指している。

地域発 元気づくり支援金の活用状況

活用年度	事業概要	支援金額
R 4	地域の若者と協力し、パッケージやブランディングを工夫した新商品（SNOW RICE）の開発と販売。	2,435 千円

最近の活動内容と今後の事業展開

青倉受託作業班で生産したお米に限らず、集落の各農家が生産したお米も販売につなげていくため、更なる販路拡大を目指し、令和 6 年から地域おこし協力隊を招へいしている。

独自の栽培方法でブランド化した「SNOW RICE」のほか、長野県による「信州の環境にやさしい農産物」の認証を受けた商品を追加するなど、多様な消費者に対する商品ラインナップを図っている。

また、長野県の地域資源製品開発支援センターの支援を受け、新しいロゴやデザインを導入し、リーフレットや新たなパッケージを製作し商品価値を高めている。

今後はお米の生産販売を軸とした 6 次産業化を模索し、若者が働ける地域づくりを目指したい。



【「青倉米」の新デザイン記者発表会】

取組の効果

お米の直営販売は、集落の農家を巻き込み地域全体の活動として定着するとともに収益増への期待が高まっている。また、直営販売による購入者との信頼関係を構築し、地域へのファン層をつかみ、定期購入販売による継続性と「生産者と消費者」お互いにとって安定的な関係を築いている。

ポイント

農業は生産のみならず、直営販売をすることで購入者につながり、自立的な運営が可能となる。

- ・「田んぼ見学会」など、購入者との交流会の開催
- ・定期購入便と共に「青倉米だより」を発行し、地域情報を伝えている。
- ・受託作業などの農家支援と合わせて、お米の直営販売が地域の農家にも恩恵がある仕組みを作る。
- ・収穫祭の開催など、地域住民や会員との課題の共有化に努めている。

青倉受託作業班（栄村）

ホームページ

<https://r.goope.jp/aouisouko/>

メールアドレス

aouisouko@ymail.ne.jp